

# ○地衣類の科の和名について (黒川 遼) Syo KUROKAWA: Japanese names of lichen families

地衣類の分類は Zahlbruckner が Engler & Prantl の Die Natürlichen Pflanzenfamilien, Band 8 に示したものを標準としてきた。しかし、地衣類はいわゆる lichenized fungi であり、菌類の分類体系に組み入れて分類すべきであるとの考えが普遍化し、現在は地衣類の分類の全体的な見直しが進められている。一方では、Eriksson (1981) や Hafellner (1984) による地衣類の科の見直しや、その他の研究者による新しい科の提唱が相次ぎ、地衣類の分類は大きく変貌しつつあり、これからも様ざまに書き換えられるものと思う。したがって、現段階で地衣類の科の和名を整理するのは時期尚早とも言えるが、現在日本植物分類学会を中心として、植物の科の和名の整理が進められているので、これを機会に一応整理してみた。現在報告されている地衣類の科のなかには、ごく少数の種あるいは属しか含まず、地球上の限られた地域からしか記録されていないものもあり、これらはここでは取扱わないことにした。しかし、特異な形態をもっていたり、系統的に重要と思われるものも含めると、102の科をあげることができる。これらの大部分には、すでに和名が与えられているが、次に列挙するものには適当な和名がないので、それぞれの科名のあとに示したような新しい和名を用いることを提唱したい。

Asterothyriaceae ホソヒゲゴケ科, Bacidiaceae イボゴケ科, Biatraceae チャワソゴケ科, Brigantiaceae サビイボゴケ科, Catillariaceae ヒノキノアオバゴケ科, Chrysothricaceae コガネコナゴケ科, Cladiaceae カゴメゴケ科, Crocyniaceae ワタゴケ科, Fuscideaceae ヘリトリイボゴケ科, Haematommataceae ザクロゴケ科, Harpidiaceae イシバイキノリ科, Hymeneliaceae キッコウイボゴケ科, Hypogymniaceae フクロゴケ科, Lecaniaceae ササクレゴケ科, Lecideaceae ヘリトリゴケモドキ科, Lecotheciaceae クロサビゴケ科, Lichinaceae ヒメイワゴケ科, Lobariaceae カブトゴケ科, Lopadiaceae ニセサビイボゴケ科, Megalosporaceae クロコボンゴケ科, Micareaceae サビゴケ科, Mycocaliciaceae クギゴケ科, Mycoporaceae ニセウメバチゴケ科, Mykoblastaceae クロアカゴケ科, Phyllopsoraceae コバノマルミゴケ科, Pilocarpaceae ヤシノアオバゴケ科, Porpidiaceae ヘリトリゴケ科, Psoraceae マルミゴケ科, Ramalinaceae カラタチゴケ科, Rhizocarpaceae チズゴケ科, Roccellaceae リトマスゴケ科, Squamarinaceae アサヒナゴケ科, Teloschistaceae ダイダイキノリ科, Tephromelataceae クロイボゴケ科, Trapeliaceae デイジーゴケ科, Trichotheliaceae ホルトノギゴケ科, Xanthopyreniaceae ホシゴケモドキ科。

以上の和名を与えるに際して、それぞれの科に含まれる規準属 (type genus) の和名を、できるだけそのまま使うように考えた。例えば、Hypogymniaceae には *Hypogymnia* フクロゴケ属, *Menegazzia* センシゴケ属その他が含まれるが、規準属のフクロゴケ属からフクロゴケ科の名を採用した。また、Teloschistaceae の規準属 *Telo-*

*schistes* のように属の和名がない場合には, *Teloschistes* にダイダイキノリ属の和名を予め準備して, 科の和名もダイダイキノリ科とした。これらの属の和名については, 別の機会に報告することにした。一方, *Trapeliaceae* のような場合には規準属の *Trapelia* に属の和名がなく, 信頼すべき日本産の報告もないので, 同科に含まれる *Placopsis* デイジーゴケ属の名称を科の和名にも採用し, デイジーゴケ科とした。

近年研究が進展し, 科の概念が著しく変ったものとして広義の *Lecideaceae* ヘリトリゴケ科がある。日本でヘリトリゴケと呼ばれて, 広義の *Lecideaceae* の代表と考えられてきたものは, 現在 *Porpidia albocaerulescens* (Wulf.) Hertel et Knop と呼ばれ, *Propidiaceae* に属している。そこで, *Lecideaceae* を広義に解釈する場合はヘリトリゴケ科の名称を使うとしても, 狭義で使う場合にはヘリトリゴケ科は *Porpidiaceae* に対応する名称とし, *Lecideaceae* に対してはヘリトリゴケモドキ科の和名を使い, その規準属 *Lecidea* の和名も従来のヘリトリゴケ属からヘリトリゴケモドキ属に変えたらどうかであろうか。同様なことは *Lopadiaceae* にも言えるが, 従来使われてきた広義の *Lopadiaceae* サビイボゴケ科に対して, 現今の意味での狭義の *Lopadiaceae* にはニセサビイボゴケ科の和名を与え, 日本産の代表的な種 *Brigantiaea ferruginea* (Müll. Arg.) Kashiw. et Kurok. サビイボゴケを含む *Brigantiaea* サビイボゴケ属を規準属とする *Brigantiaeeae* をサビイボゴケ科としてはどうかと考える。

以上の地衣類の科の和名の選定については, 地衣類研究会の方がたから貴重な御意見をいただきました。この機会に御礼を申し上げます。

### 引用文献

- Eriksson, O. 1981. The families of bitunicate Ascomycetes. *Opera Bot.* 60: 1-220.  
 Hafellner, J. 1984. Studien in Richtung einer natürlicheren Gliederung der Sammelfamilien Lecanoraceae und Lecideaceae. *Beih. Nova Hedwigia* 79: 241-371.  
 (国立科学博物館 筑波実験植物園)

□群馬県高等学校教育研究会生物部会(編): 群馬県植物誌改訂版 604 pp. 1987. 同会, 前橋(振替・長野1-28162 群馬県植物誌). ¥5,000(送料共). 1968年刊行の群馬県植物誌を, 県の自然の基礎資料という方向で改訂したもの。植生が新しくとりあげられ, 120頁を占める。高等植物目録は3203種類240頁にわたり, 産地を示してある。蘚苔類・藻類はリストを主として 168 頁におよぶ。群馬県はまだ残された自然が多く, それだけに調査に多くの苦労があったようだ。今後の方向としては自然の変化をたどれるように, 記録地点, 時刻, 準拠資料を示すような植物誌を期待する。(金井弘夫)